
Words that I could ' t say ~ good-bye ~

朧牙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Words that I couldn't say
good
-bye

【Nコード】

N8454C

【作者名】

朧牙

【あらすじ】

紹介文『女性視点の別れ話です。』

彼と一緒に入ったイタリアンレストラン。

周りに人はなく、物静かなBGMとキャンドルライトだけがその場を演出していた。

恋人たちが食事をするには、お洒落とも言えなくはない雰囲気。

だが、彼の瞳に私は映っていない。彼は携帯のディスプレイに見入っていた。

私たちの出会いは3年前。

料理はイタリアン・香水はジパンシー・コーヒーよりも紅茶とお互いに気が合っていたのを覚えている。

だけど、その関係を今日終わらせようとする私がいる。

倦怠期？陳腐な言葉だと思う。ただ、私がもう限界なだけだ。

「ねえ、私の話、聞いているの？」

「えっ、ああ。」

そっけない返事。彼は私を見ようともしない。

ずい分前から、彼に新しい女ができているのは気づいていた。

唯一の救いは、彼が私にそのことを悟られてないと思っただけだった。

「新しい女でもできた？」

彼の驚いた顔が見たくて、カマをかけてみる。

彼の瞳に、やっと私が映った。

明らかに動揺した彼の目とその場を何とかやりすごそうとする素振り。

私は思わず、笑みがこぼれてしまう。そして、追い討ちの一言を吐き出す。

「私、知ってるのよ。」

沈黙が流れ始めた。

「ごめん。」

どれ位経ったのだろうか、沈黙を先に破ったのは彼だった。そして、それはお決まりの言葉。

「やっぱり、そうなんだ。私ね、カマをかけてみたの。

あなたが嘘をつくならつきあい続けようと思ってた。

だけど、嘘をつく甲斐性がないなら始めから……。」

不覚にも言葉が掠れてしまい、目に涙が溜まっていくのを自覚する。

冷静を装ってたはずなのに、自分が弱いことを痛感させられる。

「ごめん。」

男はこういう時に、同じことしか言えないのかと思いつつも、私は幕引きの言葉を告げる。

「私たちもう終わりだね。」

「ちよっ、ちよっと、待てよ。」

私はその言葉を見殺しして立ち上がる。
私の瞳の中には、もう彼は映っていない。

『さようなら。』

がのど元まで出てきた。だけど、私はそれを飲み込んだ。

『いい友達でいてね。』

というのは振る側の傲慢だと思う。だから

『さようなら。』

という言葉を選んだ。でも、言えなかった。
それはなぜだかわからない。だから、私は感謝の言葉を紡いだ。

「ありがとう。」

了

BGM推奨：Dido『thank you』

(後書き)

今までに寄せられたコメント紹介

by 中華

t a i s h i n君の作品第二弾。いや〜切ないよ〜!!と
言うか、私の偏見かもしれないけどt a i s h i n君(男)が書いたと
いうのに女性が書いたように思えてしまうよ。すごいねー!

by t a i s h i n

お褒めの言葉ありがとうございます。一人よがりの文になってな
ければいいのですが・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8454c/>

Words that I could ' t say ~ good-bye ~

2010年10月11日01時42分発行